中国における試験及び日本語試験

李　　培建*

1. 初めに
2. 試験歴史の回顧
3. 試験のあり方
4. 試験問題の解釈
5. おわりに

1. 初めに

現在、中国では日本語教育の規模がどんどん拡大されつつあるが、中国の大学ではロシア語やイギリス語などに取って代わり、日本語を第一外国語として専攻する学生が多く、すでに珍しいことではなくなるといわれている。日本の国際交流基金の調査によれば、2005 年の日本語能力試験を受けた中国の学習者数が 14 万 5 千人以上に上り、国や地域別で計算すれば、世界で一番多い。大連では 2005 年度に 12191 人、2006 年度に 15265 人[1]ほどの受験者は、この日本語の能力試験を受けると言われている。というほど数多くの人が日本語に興味を持っている。グローバル化進展の中、各分野における隣国の日本との交流中に日本語がなければならないという重要性をますます認識されている。

現在、各分野における大きな発展を遂げている中国においては、経済の発展はますます注目されている。中国のパワーや発展振りなどが世の中で有識者に認められるようになっている。もし経済の発展がなければ、国が立ち遅れるし、強い国に尻を叩かれることに、官民とともに一致している意見を持つようになっている。その一方で、この経済などに関する交流を拡大させるには、国と国とのコミュニケーションがなければならないことにも異議を唱えるものがないことである。それに、この相互交流を如何に維持発展させるかということに関して、言葉という掛け橋が大きな役割を果たしていることをつくづく感じさせられている。従って、ますます外国語教育を重視する傾向が強くなっている[2]。如何に外国語教育を拡大させるかは常に教育者の間の中で議論されている。その中で政治環境、教育理念、教育設備、教育方法、教師養成等を挙げられているが、日本語教育の教師の一人としてはどれも重要だと思う。しかし、日本語の教育の中で常にその日本語試験のことを考えさせられている。これは教師にも学生にも直面しなければならない問題である。というのは、試験の結果を通して、その教師の教育水準と実力を認められ、評価される。それと同時に、学生の出世のチャンスも多くなる。要するに、試験はそれぞれの利益と繋がっていると言える。従って、いつも試験のことを念頭に置くわけである。今中国の

*中国：大連外国語学院日本語学科副教授　本学社会システム研究所客員研究員

大学において（外国語大学や小、中、高校の日本語教育を除いて）日本語教育を施す大学がないというほど、日本語学科を設けて、日本語教育を行っている。が、ここに大連外国語学院の日本語教育をもとに、日本語試験を触れてみたいと思う。

2. 試験歴史の回顧

中国の教育とはなにか、学歴の教育でもあり、試験教育でもあると言える。中国の古代には支配者の大夫の孟子により、「労心者治人、労力者治于人／頭脳労働者は肉体労働者を支配し、肉体労働者は頭脳労働者に支配される」といわれ、また、中国の南北朝の流行語により、「万般皆下品、唯有读书高／読書による知識があって、社会の指導者となり得る」とも言われるように、とても受教育者は大事にされていた。従って人の上の人になろうがために、出世の目的の一つとして「科挙」に応じてきたということである。

2-1　中国古代の「科挙」

古代の「科挙」とは現在の試験である。今の中国人にとってはよく知っていることである。要するに官吏の登用試験に受かれば、人の上の人になる官吏を務めるという。「科挙」は漢に淵源し、隋、唐に始まり、清末まで続いた官吏の登用試験である。明は「科挙」の盛期であり、清末まで1300年ほど中国で「科挙」という試験制度が続いてきた。「科挙」に応じる者は経学や詩文を修めてまず自分の郷里で「州考」あるいは「県考」を受ける。合格した者は「童生」と呼ばれ、ついで「府考」を受験する。これに及第した者はさらに各省教育行政の首脳者たる「学政」から「院考」を受ける。「院考」は3年毎に1回行われる。「院考」の合格者は「秀才」と呼ばれ、「府学」に入ることが許される。これに入ることを「進学」といい、入学者を「生員」という。同年に「生員」になった者は次の「郷考」を受ける前に「科考」と呼ばれる予備試験を受ける。「郷考」は3年に1回、中秋8月に一省の「生員」を省城に集めて、中央から派遣された試験監督官の手で行われる。その科目は四書、五経、作詞、論策などである。試験場は「貢院」と呼ばれる常設の建物があった。試験は三場に分かれ、各場は三日間で、第1日夕刻より始めて第3日の朝に答案を出して退場する（合計9日に及ぶ）「郷考」に及第すれば、「挙人」の称号を得る。「挙人」の第1位を「解元」と称する。合格者の氏名を発表することを「発榜」という。「会試」は3年に1回、「郷考」の翌年の陽春3月首都で行われる。科目は「郷考」と同じでただ程度が高くなる。「郷考」と同じく三場9日間にわたり、「貢院」と呼ぶ試験場で行われる。「会試」の合格者を「貢士」と称し、その首席を「会元」と呼ぶ。「貢士」は直ちに「殿試」を受ける。これは天子が自ら「貢士」の席次を定める試験で1日で終わる。この「殿試」を経て初めて「進士」の称号を受ける。「進士」の首席3名を「第一甲」とし、「進士及第」の資格が与えられる。これに次ぐ者を「第ニ甲」とし、「進士出身」の資格を、残余を「第三甲」とし、「同進士出身」の資格が与えられる。また、「第一甲」の中の第1位を「状元」、第2位を「榜眼」、第3位を「探花」と別称する。「進士」の氏名は、これを「黄榜」に記載して、皇城の門外に掲げられる[3)]。というように非常に難しい試験を経て出世の名誉を獲得する。これは読書人の最も名誉とすることであり、皆から尊敬されることでもある。「科挙」とはなにか、出世の欲を持つ人にとって一生をかけてなかなか乗り越えられない難関にほかならない。そして

ずっと昔から百姓の生活に浸透し、定着してきたのである。

2–2　政治的な試験

清が終わってから中国では殆ど内戦に陥り、完全した試験制度を貫くことができなかったわけである。一九四九年十月に、蒋介石の国民党政権が台湾に亡命し、共産党政権が誕生した。当時、旧ソ連政府は中国共産党の政府に対して多くの援助をおこなっていたので、建国前も建国後も、特殊関係に結ばれた両国はイデオロギ面においても、世界の社会にほぼ同じ声を出すので、中国は何もかも旧ソ連に学ぶことになったわけである。各分野における交流必要だと思われ、言葉がなければならないので、従って旧ソ連人のことを兄貴と呼ぶ中国人の間では、ロシア語の勉強が流行ってきた。学校でロシア語を学ぶか、政府派遣でロシアに留学することは、一つのブームとなっていた。当時ロシア語を身につけることにより、出世するケースがよくあったと言われた。これが原因で、中国の小学校から大学まで第一外国語の教育がロシア語で、そして普及してきた[4)]。しかし、どんな人が大学に進学できるか、どんなの人が外国に留学できるか、それはまったく各個人の意志や希望によるものではなく、中国政府の各行政機関によって指名され、願いが叶えたものであった。中国政府は教育をうけさせるものを、徳育、知育、体育などにおいて、全面的に、立派に養成するという教育方針を提出し、政治上で信頼できる世代を育てることになる。要するに中国の政治に責任感を持ち、共産党を擁護し、国を愛し、社会主義制度に異議を唱えない継承者を養成することである[5)]。一九六六年から「プロレリア文化大革命」が始まり、それにイデオロギによる中ソ間の政治の食い違いをめぐって論争が行われ、領土紛争にまで悪化した。そこで、一九七七年まで全国の大学で全国統一入試による学生募集が中止され、大学の日本語教育もストップになっていたという。

どんな人が信頼できるか、どんな人が信頼できないか、それは長いこと、左傾路線に左右されてきた中国では、「革命幹部、革命軍人、労働者、貧農、下層中農」といわゆる「紅五類」の人または「紅五類」の子供が信頼されて、大学進学や外国留学のチャンスを得られた。それに対して「旧地主、旧富農、社会主義に反対する者、犯罪者、右派」といわゆる「黒五類」の人または「黒五類」の子供が疑われ、大学進学や外国留学のチャンスを失ってしまったわけである[6)]。政治がすべてという時代に、試験があったが、「紅五類」という条件が揃わなければ、やはり大学進学や外国留学のチャンスが有り得なかった。それにプロ文革に入って、左傾路線を盛んに唱えられて、「紅五類」に相応しい人達はまったく試験なしに、（いわゆる政治審査に合格した者）堂々と大学進学や外国留学をしたりしたわけである。反対に「黒五類」に属する人たちには大学進学や外国留学のチャンスがなく、農村など、生存条件が厳しいところどころに行かされて、「思想改造」を受けさせられた。要するに色の眼鏡をかけて見られた時代では教育上の試験がなく、政治上の試験に限られていた。「読書無用」が氾濫し、その時代の代表者には「張鉄生」「黄帥」〔当時入試、授業中の試験に反対して左傾路線に賛成した人物、左傾路線の犠牲者でもあった〕などがあげられる。

2–3　実用向きの試験

七十年代の末から改革開放政策を施されて以来、中国は世界各国、とりわけ隣国の日本との間で科学文化、経済貿易各分野にわた

る交流が一段と頻繁になりつつある。国内では政府の指導経済から市場経済に転換されつつある。そして、社会的に個人の意志や希望などを尊重されるようになってきた。人々は自分の考えを持って就職や進学や留学などを選ぶことができ、好きな人生を楽しむことができることにしている。需要があれば、市場が生まれる。中国と日本の交流には言語が必要なので、日本語教育の発展もあるということから、中国全土において、「日本語ブーム」が沸き起こった。特に、八十年代中期以後、中日両国の貿易量が大幅に増長し、中国大陸に進出する日本企業の数が急増し、中国の各地に日本企業の現地駐在事務所、中日合併企業、日本独自の資本企業がまさに雨後の竹の子のように現れた。このような時代の流れに左右されて、日本語が分かる人材の不足が更に深刻になりつつあり、学生の就職先と仕事の内容も大きく変化した。八十年代初期までの就職先は主として旅行、国際貿易、政府対外事務、教育機関であり、仕事の内容は殆ど通訳と教育機関の教師であった。八十年代以後の日本語人材の需要は、就職先から見れば中国の経済、貿易、金融、産業の諸分野が加わると、中日合併企業、日本独資企業の求人がいっそう緊迫した状態であり、仕事の内容から見れば、もう単純に通訳をするのではなくて、日本に対してより幅広い知識とより深い理解を持ち、国際関係、国際貿易、国際金融、企業経営などの基礎知識を持ち、独自的に事務処理ができる人材が求められるようになってきた[7)]。というのが原因で、日本語人材の知識構造はすでに強い語学力だけでは社会の需要に間に合わなくなった。こうした状況の中では、大学の日本語専門教育は大いに強調された。日本語学科を設ける大学は七十年代の十数校から八十年代末の六十校近く増え、一九九八年では百二十校を超えるようになった。学校教育の内容も社会の需要に応じてさらなる充実が求められ、学生の知識構造を改善するために工夫を凝らしてきた。社会としてはいろいろな優秀な人材を求めている場合に、優秀な人材の基準とはなにかという話題を持ち出されてきた。つまりどんな人を選ぶことである。これは政治の立場を見る選択の方法と違って中国政府の各行政機関によって指名することでもなく、「分数面前人人平等／点数の前で誰もが同じく扱われる」という理念を生かして、試験の成績に応じて人を選ぶことで皆の意見が一致している。そうすると、進学入試や学校の中の試験は勿論、日本海外国際交流基金が主催する年に1回の「日本語能力試験／JLPT」、日本国貿易振興会が主催する年に4回の「ビジネス日本語能力試験／BJT」、日本国検定協会が主催する年に6回の「実用日本語検定試験／J-TEST」、中国教育部が主催する年に1回の「全国外国語レベル検定試験／WSK」、「通訳資格証明書試験」「大学日本語四級、八級検定試験」などは現代人の夢を実現させるために大きな舞台を作っている。現代人はその実力を見せるように大いに活躍している。今の人達は人生が何か、自分なりの人生の目的を有して生きている。学生達はこれらの試験を通して社会に個人の実力を認めてもらえるようになっている。これが実用向きの試験のおかげでもたらした生き方ではないかと思う。

3. 試験のあり方

現在、試験を通して出世したいという考えを持っている人が多くいる。これはその試験の成績により、自己存在の価値観や自己能力の高低などを認められると思われている。如何なる方法を使用して、よい成績を取ろうとしているのが当然である。が、試験中のカン

ニングや替え玉はすでに社会問題のひとつでもある。しかし、試験がどうなっているか、二通りに分けてみたいとおもう。

3-1　形式上の試験

中国では大学のほかに、小、中、高校の生徒と社会人に対する日本語教育が盛んに行われているが、私は大学を中心に考えていこうと思う。ただ、大学の日本語教育に専門教育と一般教育という区別がある。専門教育とは専門学科のことであるが、一般教育とは大学の一般の学科における教育のことであり、「公共日語教育」と称する。

中国では、高等教育機関における日本語専攻の学科を「日本語専業」または「日本語学科」という。「日本語専業」または「日本語学科」は、普通、「日本言語文学を専攻する学科」または「日本言語文化を専攻する学科」とのことを意味する。但し、現実に「国際貿易日本語学科」、「科学技術日本語学科」、「計算機日本語学科」、「観光日本語学科」、「メディア日本語学科」などもあり、これらも普通一律に「日本語専業」または「日本語学科」と言う。

また、中国では高等専門教育機関として四年制の大学を除いて、三年制または二年制の高等専門学校、高等職業学校、これと同資格の夜間大学、社会人教育大学などがある。これらの高等教育機関は必ず国家教育部または地方教育局の承認を得る公立教育機構である。国家教育部または地方教育局の承認がなければ、学生の学歴が認められないことになっている[8)]。大連外国語学院は中国で一番先に創設された外国語大学ではない（一九六四に創設され、同時に大連日本語専門学校と称す。一九七〇年に遼寧外国語専門学校に改称し、一九七八年に大連外国語学院に改称する。）が、日本語教育において、中国で教師陣の人数が多く、影響力が大きく、リーダーシップをもつといわれている。したがって、各大学の日本語教育者は常に大連外国語学院の教育方針、あり方からテキストまでを参考にして、日本語教育を施したと思われる。

ところで、学生は在学中年に2回ほど（期末試験と学年試験）試験を受けなければならないことになっている。学生はどのように試験を受けるか、そして教師はどのように試験教育を施してきたか、ずっと頭をかかげて考えてきた。養成目標としては、学生は「聞く、話す、読む、書く、訳す」の能力が高いレベルに達し、語学の基礎的理論知識をマスターし、日本事情と中日関係の歴史と現状をよく理解し、これを生かして日本語の実用の能力を持ち、対外的業務の水準に対応できる日本語人材を養成する。あくまでも学生の応用レベルを高めようとしている。要するに、社会の需要に合わせて学生を養成するのが旨である。長い間、政府の指導下にあり、指導経済に影響されて、学校側から試験教育よりもっと人間形成、思想教育を強調され、卒業後の就職先まで定めていた。個人の希望により就職先を選択することが難しかったが、何もかも政府にまかせられるので、学生も教師も卒業後どうするかという心配がなくて試験教育を施すことも難しかったわけである。

3-2　名義上の試験

一九八〇年代に入って大学においては新しい教育方針により、複合型外国語人材養成の試みをしている。社会においては需要に応じるように、各種学校を設立して日本語教育を施している。まるで雨上がり後の竹の子のように日本語教育は盛んになりつつある。特に、一九八四年から日本国際交流基金をはじめ中国の各大学は大連、上海、北京、広州の

4ヶ所で日本語学習の在校生を相手に日本語能力試験を実施した。その後日本語学習の在校生に限らず、社会人までこの日本語能力試験を受けるようになっている。その後追い風に、一九九〇年から各大学は社会人に対して「各種職称資格日本語試験」、一九九二年からの「全国外国語レベル検定試験／WSK」、二〇〇〇年からの大学の日本語学習の在校生の「四級と八級の日本語試験」（大学の二年生は四級日本語試験を、三年生は八級日本語試験を受けることになる）、それから、二〇〇二年からの「ビジネス日本語能力試験／BJT」などを行ってきたということである。これらの多くの日本語試験を受ける目的は、その日本語能力を証明する能力資格を取るためである。中国も日本と同じように、八十年代から学歴社会に入り、各役所、各企業、それに民営企業（自営業）は人員を募集する場合、まず、応募者に大学卒業証明書またはこれに相当する証明書を提出してもらうことになっている。その卒業証明書一つあれば、希望するポストにちかづける夢を持てると言われている。しかし、各役所、各企業では、その卒業生を扱ってみて、思う通りに行かないことを痛感させられた。要するに、卒業証明書を持っている者は必ずしも希望する者ではないと分かったわけである。この事情を反省して、日本の企業、会社、事務所は人員を募集する場合、日本国際交流基金の実施した日本語能力試験合格の一級資格証と二級資格証を提出させることになっている[9)]。

こうして、日本語能力試験の資格証が就職の場合、昇進の場合、日本留学の場合、いずれ必要なので、また日本語能力試験を受けるために、新しい日本語教育の模索が始まった。

しかし、この日本語能力試験の資格証を得るために、どうしても日本語能力試験を受けなければならないことになっているので、その需要に応じて各種の日本語能力試験の資格証の学習班が生まれて、学校の中でも社会でも日本語能力試験の資格証を目当てにした人達を募集し、様々な日本語能力試験の教育を始めたわけである。例えば日本語の表現を公式にして、意味が分からなくても頭の中に叩き込むケースがよく見られる。実は名義上の日本語能力試験の資格証のためにいろいろ苦労した。不正な方法で日本語能力試験の資格証を取った人は別として頑張って日本語能力試験の日本語を覚えた人たちはそれが使えなくてよく忘れる。普段学校で覚えた日本語は試験を受ける時に役に立たない場合もある。この難関を越えるには今後その教授法を研究すべきところが多いと思う。

4. 試験問題の解釈

一九八〇年代に中国では改革開放政策を施すに従って、外国語人材の需要が高まり、各分野において外国語人材としては、知識構造の幅が広く、経済、貿易、企業経営などの知識を備え、独自的に事務処理ができるというような複合的学科の知識を持つ人材が求められるようになってきた。それにしても一九六六年から「プロレタリア文化大革命」が始まり、全国的に社会混乱の状態に陥ったため、一九七〇年までは各大学は教学活動を中止せざるをえなかった。が、一九七〇年十月に大連外国語学院と清華大学は中央政府の指示に従い学生を募集し、教学活動を再スタートした。一九六六年ごろ日本共産党が旧ソ連の共産党の問題をめぐって、中国共産党と是非の論争をしていたので、日本共産党の教師を撤退した。一九七七年に再スタートした教学活動は、旧満州の大学、高校を卒業した中国人教師を中心に展開された。旧満州の

大学、高校を卒業した教師たちは政治の罰を恐れて、編集した日本語教科書の内容は毛沢東の著作の訳文、「北京週刊」、「人民中国」などの雑誌の抜粋または引用ばかりであった。それに対して、一九八〇年に入ってから、改革開放政策を施されたおかげで、経済の高度成長ばかりでなく、各国と各分野にわたる交流が盛んになって、新しい視線で外国を見るチャンスが得られ、交流を行い、理解を深めた。文化、教育も交流の一環として外国の優れたものを取り入れ、使用するブームとなってきた。

但し旧満州の大学、高校を卒業した中国人教師または後募集してきた日本人教師を中心とした日本語教育は、やはり不十分なところがあり、ただ語学教育に限っているので、教育課程による知識面が狭くなり、日本に対する深い理解、交流または研究のための人材養成を目指す教育システムがまだまだできていなかった。語学教育といっても、ひとつの言葉表現について教師によって説明が違う。教師の教育水準の差があって直接に受教育者にマイナス影響を与えることになる。確かに八十年代の半ばから教師たちは相前後外国に出かけて留学し、日本から資料やテキストなどを輸入しているが、八十年代に入って、日本の企業が後を立たずに大陸の各都市に進出して、工場、会社、事務所を持つようになり、「聞く、話す」ことのできる日本語人材が人気になった。というので、テキストの内容も形式も情勢に応じて変わった。いわゆる理論より実用性を重んじた。但し、不思議なことに学生は学校で覚えた日本語を用いて日本語能力試験の問題に答えられないことがある。が、学生には入社できる日本語能力1級証明賞証がもらえなければどうしょうもないのが事実である。従って教師の教える基準、範囲、程度、進みぐあいなどについて、また研究し、その日本語教育に従事している教師は同じ教育水準を持つものではないが、一つの語彙、一つの文法現象に対して、理解の度合いがあっても、問題がどこにあるか、その例年の問題集に合わせて、輸入したテキストを見る必要があると思う。例えば「どんな時どう使う日本語表現文型500〔中、上級〕」から一例を挙げて見よう。

例：

時間的同時性〔二つの事柄が殆ど同時に起こることを言いたい時〕

1、～たとたん（に）【～したら、その瞬間に】

●「～が終わったのとほとんど同時に予期しないことが起こった」と言いたい時に使う。前のことと後のことは、互いに関係があることが多い。

①ずっと本を読んでいて急に立ち上がったとたん、眩暈がした。

②私が「さようなら」と言ったとたんに、彼女は泣き出した。

☞　3「～か～ないかのうちに」の☞を参照

2、～（か）と思うと・～（か）と思ったら【～すると、すぐに】

●「～が起こった直後に後のことが起こる」と言いたい時に使う。

①空で何かピカッと光ったかと思うと、ドーンと大きな音がして地面が揺れた。

②あの子はやっと勉強を始めたと思ったら、もういねむりをしている。

☞　3「～か～ないかのうちに」の☞を参照

3、～か～ないかのうちに【～すると、同時に】
●「～が起こった直後に後のことが起こる」と言いたい時に使う。
①子供は「おやすみなさい」と言ったか言わないかのうちに、もう眠ってしまった。
②彼はいつも終了のベルが鳴ったか鳴らないかのうちに、教室を飛び出して行く。
☞　1「～たとたん（に）」、2「～（か）と思うと・～（か）と思ったら」、3、「～か～ないかのうちに」は、現実の出来事を言うのであるから、命令文、意志を表す（う・よう・つもり）、否定文などが後に来ることはない。5「～が早いか」、6「～や・～や否や」、7「～なり」も同じ。

4、～次第【～したらすぐ】
●「～」が起こったら、すぐ後のことをするという意志を伝えたい時によく使う。
①「スケジュールが決まり次第、すぐ知らせてください。」
②「資料の準備ができ次第、会議室にお届けします。」

5、～が早いか【～すると、同時に】
●「～が起こった直後に後のことが起こる」と言いたい時に使う。
①小田先生はチャイムが鳴るが早いか、教室に入ってくる。
②弘子は自転車に乗ったが早いか、どんどん行ってしまった。
☞　3「～か～ないかのうちに」の☞を参照

6、～や・～や否や【～すると、同時に】
●「～が起こった直後に後のことが起こる」と言いたい時に使う。
①良子は部屋に入って来るや、「変な匂いがする」と言って窓を開け放した。
②そのニュースが伝わるや否や、たちまちテレビ局に抗議の電話がかかってきた。
☞ 1　後の事は前の事に反応して起こる予想外の出来事が多い。
☞ 2　3「～か～ないかのうちに」の☞を参照

7、～なり【～すると、同時に】
①子供は母親の顔を見るなり、ワッと泣き出した。
②彼は暫く電話で話していたが、突然受話器を置くなり、飛び出していった。
☞　3「～か～ないかのうちに」の☞を参照

8、～そばから【～しても、すぐ】
●「～しても～しても、すぐ次のことが起こる」と言いたい時に使う。
①小さい子供は、お母さんが洗濯するそばから、服を汚してしまう。
②仕事を片付けるそばから、次の仕事を頼まれるのでは体がいくつあっても足りない。
時間的同時性はアルクの《日本語表現文型 500 中・上級》の p42 ～ 44 を引用 [10)]

以上の例の内容を見て、どうも理解しにくいところがある。母語の立場に立っている日本人はこれをスムーズに読み取れるかもしれないが、われわれ中国人にはなかなか難しい。というのは、ポイントの説明はにたりよったりしているところが多いからである。以上の解釈に対して、理解を生かして次のものをまとめて見た。

例：

日语时间同时性顺接特点

日语中时间同时性顺接的表现形式没有太复杂的内容、给人一种比较容易理解的印象、但是、如果用汉语思维套用日语语法现象、就容易造成一些概念的混淆。因此、日语与汉语之间是不乏微妙之处的、在此、就日语中的时间同时性顺接现象做一对比分析。

一、必然结果的主观动作迅速顺接

接续助词「ト」接在动词终止形「～ル」后面表示前面的动作行为与后面的动作行为有必然联系、而且有必然的结果出现、是一种意料中的主观瞬间动作行为的转换现象。接续助词「ト」一般与副词「スグ」搭配使用、相当于汉语“一……就（马上）……”的意思。比如：

例

1、向こうに着くと、皆さんに母の挨拶を御伝えし、お土産を上げました。／一到那里、就向大家转达母亲的问候、送上了礼物。

2、今日はほんとうに疲れているので、家に帰るとすぐ寝ました。／今天是真累了、一回到家、马上就睡了。

3、子供は学校から家に帰ってくるとすぐテレビのスイッチをいれます。／孩子从学校一回到家就打开电视机。

4、バスが止まると、乗っていた人が降り始めました。／公交车一停、乘客就从车上下来。

5、お金を稼ぐとすぐお返しします。／我一挣到钱、马上就还您。

例句 1 ～ 5 中间由于接续助词「ト」的作用、都是表述了由前项动作行为迅速向后项动作行为的转换。值得注意的是这种转换是一种必然的转换、前项动作行为的发生、随之而来的后项动作行为是顺理成章的结果。例句 1「向こうに着くと／一到那边、立刻……」随之而来的动作行为范围、按照必然的转换、顺理成章的结果推断、那将是向他人致以问候、送上礼品、看景、或者休息等、例句 2 和 3「家に帰るとすぐ／一回到家、马上……（家に帰ってくるとすぐ／一回到家里、就……）」容易联想到动作行为是放下手中的东西、洗手、吃饭、看电视、睡觉等、例句 4「バスが止まると／公交车一停、就……」联想到动作行为是下车或上车、例句 5「お金を稼ぐと／一挣到钱、马上……」联想到动作行为是购物、送钱给家里人或还债等。以上句子中的动作行为迅速向后项动作行为的转换可视为必然的转换、顺理成章的结果推断。但是、值得注意的是、非必然结果现象不可以这样使用。即使语法上说得通、逻辑上不通、也不可以使用。比如：

× お金を儲けるとすぐ飛び降りました。

× 働き始めるとすぐ足を滑らしました。

以上是列举的兩例错误句、从句子的接续关系判断、应该是正确的、但是、从句子的前后内容分析、可以看出逻辑关系是矛盾的、「お金を儲けると／一赚到钱、马上……」、后续动作行为应该是请客、购物、出外旅游等、而不是「飛び降りました」。同样、「働き始めると／一开始工

作、就……」、后面的动作行为应该是振作起来、打起精神或者是瞌睡、萎靡不振等、而不是「足を滑らしなした」。

从正确句和错误句对比来看、必然结果的主观动作迅速顺接句子、除了判断接续关系是否正确外、应更看重句子的逻辑性、而且后续句子的动作行为是顺理成章的结果。

二、非意料中的动作迅速顺接

助动词「～タ」后面连接接续助词「トタン（ニ）」、表示后面的动作行为与前面动作行为的意愿完全相悖、出现未曾料想的结果。前面动作行为虽然是起因、但是、后面出现的动作结果、出乎人意料之外、而且是不尽人意的动作行为结果。相当于汉语“一……意料不到马上……”或“刚……不曾想立刻……”的意思。比如：

例

6、ドアを開けたとたんに、中から犬が飛び出してきたので、びっくりしました。／一打开门、不曾想从里面冲出一条狗来、吓了我一跳。

7、窓を開けたとたんに、机の上の書類などは吹き飛ばされてしまいました。／刚打开窗户、不曾想把桌子上的文件一下子都刮飞了。

8、ずっと本を読んでいて急に立ち上がったとたん、めまいがしました。／一直看书、刚突然站起来、就感觉发晕。

9、バスを降りたとたんに、傘を置き忘れたのに気づいたのです。／刚一下公交车时意识到把伞忘在公交车上了。

10、電車を降りる。とたんに雨が降り出しました。／刚从电车下来、未料到下起雨来。

例句 6 ～ 10 表示后面的动作行为与前面动作行为的意愿完全相悖、出现未曾料想的结果。例句 6「ドアを開けたとたんに」是开门的动作行为、如果知道打开门的结果迎上来的是狗的话、就会做好心理准备、避免受到惊吓、例句 7「窓を開けたとたんに」是开窗的动作行为、如果知道开窗的结果是刮走文件的话、就会采取相应的措施、例句 8「急に立ち上がったとたんに」是突然站起来的动作行为、站立前如果知道会发晕的话、就会采取相应措施、从而避免这种事情的发生、例句 9「バスを降りたとたんに」是走下公交车的动作行为、如果知道下车会遭成雨伞的忘带、就会随时带在身上、例句 10「電車を降りる。とたんに」是走下电车的动作行为、如果知道下车会下雨的话、就会事前准备好雨具。从以上所举例句来看、前面的动作行为都没有带来后面意愿必然的结果行为、后面的动作行为与前面动作行为的意愿完全相悖、出现未曾料想的结果。而且、后面出现的动作结果、出乎人意料之外、而且是不尽人意的动作行为结果。同样是动作迅速顺接、转换、后面动作行为却非意料中的动作行为发生。

但是、值得注意的是、意料中的必然结果、即使语法上通、也不可以使用。比如：

× 家に帰ったととたんに、寝ました。

× お金をもらう。とたんに欲しいものをたくさん買いました。

以上是两例错误句、从句子的接续关系判断、应该是正确的、但是、从前项主观句子发展趋势来看、「家に帰ったととたんに、寝ました。／一回到家、就睡了。」是合理的动作行为、同样、「お金をもらう。とたんに欲しいものをたくさん買いました。／一拿到钱、就买了许多自己想要的东西。」也合乎逻辑。然而、接续助词「トタン（ニ）」在句子中所起到的作用、要求后续客

观句子不是按照主观句子发展、出现出乎人意料之外、而且是不尽人意的动作行为结果。同时、接续助词「トタン（ニ）」的后面不可以出现命令、意志、推理、否定的表述。

从正确句和错误句对比来看、考虑到助动词「～タ」后面连接接续助词「トタン（ニ）」在句子中所起到的作用、前面的动作行为不是按照事物发展的必然结果所变化发展、而更看重意想不到结果。

三、期待、请求的动作迅速顺接

名词「シダイ」接在动词连用形「～リ」的后面、起到接续助词的作用、可视为接续助词。其「シダイ」后面的动作行为是前面的动作行为的迅速转换、表示说话人对后面的动作行为的一种期待、请求、希望的意思、是说话人希望对方或满足对方的主观动作行为。相当于汉语“一旦…（希望对方或满足对方）马上…”的意思。比如：

例

11、向こうに着き次第、すぐ電話ね。／一到那边、马上打电话来。

12、何か心当たりがあり次第、まず私に知らせてください。／如果有什么线索、请首先通知我。

13、資料の準備ができ次第、会議室にお届けください。／资料一准备好、请马上送到资料室来。

14、会長が到着し次第、会を始めたいと思います。もうしばらくお待ちください。／会长一到、马上开会。请稍候片刻。

15、あの歌集は読み終わり次第、お返しします。／那本诗集、我看完马上还给您。

16、すみません、山田はただいま席をはずしております。戻り次第、連絡させますので、よろしくどうぞ。／对不起、山田现在不在自己的座位上。山田一回来、马上让他和您联系。麻烦您了。

接续助词「シダイ」表示在「シダイ」前面的动作行为条件具备的情况下、意味着「シダイ」后面的主观动作行为要马上开始。是说话人对后面的动作行为的一种期待、请求、希望的意思。这种期待、请求、希望的动作行为应该是说话人希望对方或满足对方的主观动作行为。例句 11 ～ 13 是说话人希望对方所做的动作行为、例句 14 ～ 15 是说话人满足对方的动作行为。例句 11「向こうに着き次第～」是抵达某地的动作行为、只要该动作行为条件成立、随之而来的是希望对方给自己告知、是否平安；例句 12「何か心当たりがあり次第～」是告诉对方对某事情、只要有线索、随之而来的是希望对方给自己一个通知；例句 13「資料の準備ができ次第～」是告诉对方只要资料准备完毕、希望或请求对方将其资料送到自己指定的位置；例句 14「会長が到着し次第～」是告诉对方只要会长到来条件成立、便可以满足对方、开始会议；例句 15「あの歌集は読み終わり次第～」是告诉对方、诗集读完的动作行为条件只要成立、便送还对方；例句 16「戻り次第～」是告诉对方、只要同室人回来、马上就他和对方联系。从所举例句中不难看出、例句的后半部的内容、即「シダイ」后面的内容为请求和主观意志的动作行为、而且、这种请求和主观意志的动作行为都是说话人在确认「シダイ」前面的动作行为条件具备的情况下、所要做的请求和主观意志的动作行为。

但是、有的句子仅仅从译成汉语句子来理解正确与否、是不合时宜的。即使语法上讲得通、也不可以使用。比如：

× 春になり次第、桜の花が咲きます。

× 入試に受かり次第、お祝いに両親がノートパソコンを買ってくれるだろう。
× 電話を切り次第、仲間たちと食事をしました。

以上是三例错误句。如果、就句子的接续关系而言、应该是正确的、虽然「春になり次第、桜の花が咲きます。／一到春天、樱花盛开。」是正常的自然现象、「入試に受かり次第、お祝いに両親がノートパソコンを買ってくれるだろう。／考试一通过、作为祝贺鼓励、父母会给我买笔记本电脑吧。」也是合情合理。同样、「電話を切り次第、仲間たちと食事をしました。／挂断电话、就和伙伴去吃饭了。」也合乎逻辑。但是、接续助词「シダイ」在句子中所起到的作用、应该是说话人希望对方或满足对方要做的主观意志动作行为。在接续助词「シダイ」的后面不可以出现像「～が咲きます」这样的非主观意志动作行为；「～を買ってくれるだろう」这样的推测；「食事をしました」这样的动作终止。

从正确句和错误句对比来看、接续助词「シダイ」表示在「シダイ」前面的动作行为条件具备的情况下、意味着「シダイ」后面的主观动作行为要马上开始。是说话人希望对方或满足对方的主观动作行为的表述。而「シダイ」后面不可以有非主观意志动作行为、推测、推量着动作行为、动作终止行为的表述。

四、习惯性的动作顺接

接续助词「ソバカラ」接在动词终止形「～ル」或动词过去形「～タ」后面时、其后面的动作行为是前面动作行为带来的习惯性动作的顺接现象、而且是一段时间内不间断反复出现的动作内容。相当于汉语“随…随…”或“刚…就…”的意思。比如：

例

17、年を取っているので、教わるそばから忘れてしまいました。／上了年纪了、刚学会的东西就忘记、随学随忘。
18、芽は出るそばから、牛がそれを食いました。／刚发芽、牛就将其啃吃掉了。
19、部屋を片付けるそばから、子供たちはまた散らしてしまいました。／刚收拾好房间、孩子就给搞得乱七八糟。
20、今の若者たちはお金を大切にしないで、親からもらったそばから、使ってしまいます。／现在的年轻人不知道爱惜钱、从父母那里要来钱就花掉。

接续助词「ソバカラ」表示其在前面一段时间内不间断反复出现的动作的前提下、直接影响后面动作行为的不断地重复、但是、这种前后动作行为顺接区别于一、必然结果的主观动作迅速顺接、二、非意料中的动作迅速顺接、三、期待、请求的动作迅速顺接的接续、有相当宽容的时间内的习惯动作行为的重复现象。而一、必然结果的主观动作迅速顺接、二、非意料中的动作迅速顺接、三、期待、请求的动作迅速顺接、六、不自然的动作迅速顺接、九、视觉中的前后动作行为迅速顺接等接续现象却必须有时间、动作的紧凑性。例句 17 ～ 20 都在说明接续助词「ソバカラ」后面的动作行为是前面动作行为带来的习惯性动作的顺接现象。例句 17 是所学随后就忘、例句 18 是草木发芽随后牛就将其吃掉、例句 19 是大人反复收拾、孩子随后将其搞乱、例句 20 是孩子从父母那儿拿到钱随后将其花掉。例句 17 ～ 20 的内容都具有共同点、既前后动作行为都具备反复性、而且、强调这些动作行为不是在特指的时间内所做的内容。

但是、有些句子仅仅从内容上理解语法、似乎也可以解释通、然而、一次性的动作行为或非

主观意志动作行为不可以使用接续助词「ソバカラ」。比如：

× 昨日国に帰るそばから、指導教官に無事に着いたと電話を掛けて報告しました。

× この辺りでは三月の中旬になるそばから、桜の花が咲きます。

以上是两例错误句、从其句子接续关系来看、属于正确的表述。虽然、「昨日国に帰るそばから、指導教官に無事に着いたと電話を掛けて報告しました。／昨天刚回到国内、就给指导老师打了一个报平安电话。」例句属于正常的逻辑关系、「この辺りでは三月の中旬になるそばから、桜の花が咲きます。／这一带一到三月中旬、樱花就早早地绽开。」也属于正常自然现象的表述。但是。「昨日国に帰るそばから」在这个句子中只是一次性的移动行为、「三月の中旬になるそばから」在句子中不是主观意志动作行为。所以、这两例错误句都不成立。

从正确句和错误句对比来看、接续助词「ソバカラ」接在动词终止形「～ル」或动词过去形「～タ」后面时、是一段时间内不间断反复出现的习惯性动作顺接现象。不可以有一次性的动作行为或非主观意志动作行为。

五、心理条件反射的动作迅速顺接

接续助词「～ニツケテ」是由格助词「ニ」和动词「ツケル」搭配构成、接在动词终止形「～ル」或者名词的后面、表示由前面的动作行为迅速向后面的动作行为转换。然而、由前向后转化的应多为「思う」「見る」「聴く」等动词、后续常用「思い出す」「感じる」「偲ぶ」「後悔」「非難」等动词。这是一种引发式习惯转化的思维动作行为。相对于汉语“每当…的时候就…”“一…就…”“因而、每逢…就…”的意思。比如：

例

21、あの人の暗い顔を見るにつけて、私は子供の頃の自分を思い出します。／每次看到那个人的灰暗的面孔就想起孩提时代的自己。

22、彼んの生活振りを聞くにつけて、家庭教育の大切さを感じます。／每次听说他的生活状况、都感受到家庭教育的重要。

23、年頃の子を見るにつけても亡き子が偲ばれます。／一看到年龄相当的孩子就想起死去的孩子。

24、風雨につけて国境を守る兵士思い出します。／一刮风下雨就想起戍边的士兵。

接续助词「～ニツケテ」接在动词终止形「～ル」或者名词的后面、表示对有记忆的事物、通过某件事情或动作行为、条件反射引发出思维动作行为。例句 21 ～ 24 都是在通过例句内容说明接续助词「～ニツケテ」后面的动作行为是前面动作行为的引发、将记忆中、经历中的事情再次回忆起来的顺接现象。例句 21 是由他人的面孔想起自己的童年、例句 22 是他人的生活内容再次感到家教的重要、例句 23 是见到他人的孩子回忆起自己故去的孩子、例句 24 是风雨自然现象想到在边境站岗放哨的士兵。例句 21 ～ 24 都有共同点、即通过现在所见所闻某件事情、记忆起以前所经历的事情。

但是、不可以仅从汉语角度去强行解释与接续助词「～ニツケテ」相关的日语句子内容、因为这种心理条件反射的动作迅速顺接有别于其它顺接现象。并且、不可以是一次性的动作行为、推量、命令、否定动词。只可以是事后回忆句。比如：

× 桜の花が咲くにつけて、観光客は集まってきます。

×　パーティーが済むにつけて、皆で一緒に帰ろう。

以上是两例错误句、从其句子接续关系来看、属于正确的表述。虽然「桜の花が咲くにつけて、観光客は集まってきます。／每逢樱花绽开、游客便涌拥至赏花」是属常见到的风景线。「パーティーが済むにつけて、皆で一緒に帰ろう。／宴会一结束就一起回去吧。」也属于正常的请求。但是、「観光客は集まってきます」是陈述句、「皆で一緒に帰ろう」是劝诱句。两例错误句都不可以套用接续助词「～ニツケテ」。

从正确句和错误句的比较来看、接续助词「～ニツケテ」接在动词终止形「～ル」或者名词的后面、是由于某件事情的起因将记忆中、经历中的事情再次回忆起来的顺接现象。

六、不自然的动作迅速顺接

接续助词「ナリ」接在动词终止形后面、表示由前面的动作行为迅速向后面的动作行为转换。但是、后面的动作行为是一种不自然、让人费解的动作行为。相当于汉语“刚…马上就…”或“一…就…”的意思。比如：

例

25、子供は母親の顔を見るなり、ワッと泣き出しました。／孩子一看到母亲、就放声大哭。

26、あの人は私を見つけるなり、一目散に逃げ出しました。／那个人一发现我、马上一溜烟地撒腿就跑。

27、部長は私の賛成の返事を聞くなり、怒ってしまいました。／部长刚听到我同意的回答、马上就生气了。

28、彼はしばらく電話で話していたが、突然受話器を置くなり、飛び出して行きました。／他在电话中说了一会儿话、突然放下话筒、就飞快地跑了出去。

接续助词「ナリ」表示事后前后动作行为的迅速转换现象。而且后面的动作行为是对前面的动作行为是一种不自然、让人费解的动作行为的转换。例句 21 ～ 24 都在说明接续助词「ナリ」后面的动作行为是前面动作行为不自然、让人费解的顺接现象。例句 21 是见到母亲就哭、例句 22 是见到熟人就跑、例句 23 部长听到答复就发怒、例句 24 是放下话筒就跑出去。从其例句内容、前后接续关系来看、都具有共同点、让人感到不自然、令人费解。

但是、有些句子仅仅从内容上理解语法、似乎也可以解释通、然而、由于受接续助词「ナリ」功能作用所限、接续助词「ナリ」后面不可以使用意志、推量、命令、否定动词。只可以对事后一次性动作行为的表述。比如：

×　今度こそ、親からお金をもらうなり、「ありがとう」と言いなさい。

×　全員が集まるなり、出発します。

以上是两例错误句、从其句子接续关系来看、属于正确的表述。虽然、可以强行将「今度こそ、親からお金をもらうなり、「ありがとう」と言いなさい。／这次从父母一拿到钱、就要说声“谢谢”。」「全員が集まるなり、出発します。／全体一集合、就出发。」译成相应的汉语。但是、「親からお金をもらうなり、「ありがとう」と言いなさい。」是属于命令句式、「全員が集まるなり、出発します。」是属于意志句式。因此二者都不可以套用接续助词「ナリ」。

从正确句和错误句对比来看、接续助词「ナリ」接在动词终止形「～ル」的后面、其后面的动作行为是对前面的动作行为是一种不自然、让人费解的动作行为的转换。并且、是对事后一次

性动作行为的表述。

七、同时性的动作迅速顺接

接续助词「ヤ」或「ヤイナヤ」接在动词终止形后面、表示两个同时性动作行为的迅速转换。但是、一般这种由前面动作行为引发出后面动作行为不是同一个主体。而且应该是客观性、宏观性的动作行为内容。可与「～ると、同時に」互换使用。相当于汉语“刚…就…”或“刚…立刻…”的意思。比如：

例

29、そのニュースが伝わるや否や、たちまちテレビ局に抗議の電話がかかってきました。／那消息一播出、大量的抗议电话就打倒了广播电视局。

30、中国政府が門を開けるや否や、外国の良いものや悪いものなどがどっと入ってきました。／中国政府刚把门户打开、外国好的坏的东西就一古脑地涌了进来。

31、外交関係が樹立されるや否や、人員往来は盛んになってきます。／外交关系刚建立、人员往来立刻变得频繁起来。

32、正月が終わるや否や、ひな人形の宣伝が始まります。／新年一过、马上就开始女人节偶人的宣传。

接续助词「ヤ」或「ヤイナヤ」接在动词终止形后面、表示客观性、宏观性的两个同时性动作行为的迅速转换。例句 29 是消息的播出引发的抗议、例句 30 是门户的开放好坏东西的涌进、例句 31 是外交建立开始的人员交往、例句 32 是新年过后的宣传。例句 29 ～ 32 都有一个共同特点、即区别于某个人具体两个同时性动作行为的迅速转换、而是抽象两个同时性动作行为的迅速转换。

但是、应注意的是、接续助词「ヤ」或「ヤイナヤ」这种形式、主要用于书面文章。后面不可以使用意志、推量、命令、否定动词。只可以表示客观性、宏观性的两个同时性动作行为的迅速转换。比如：

× 父が家に帰るや否や、家族全員で食事を始めました。

× 社長が会議室に着くや否や、皆で拍手をしましょう。

以上是两例错误句。虽然从语法角度判断接续形式是正确、「父が家に帰るや否や、家族全員で食事を始めました。／父亲一回到家里、全家人马上开始吃饭了。」、「社長が会議室に着くや否や、皆で拍手をしましょう。／社长一进会议室、请大家鼓掌。」从所译的汉语句子判断、也可以认为是正确的表述。但是、「父が家に帰るや否や、家族全員で食事を始めました。」是一个具体句子形式、「社長が会議室に着くや否や、皆で拍手をしましょう。」是劝诱推量句子、因此二者都不可以套用接续助词「ヤイナヤ」。

从正确句和错误句对比来看、接续助词「ヤ」或「ヤイナヤ」接在动词终止形后面、表述具有客观与宏观特征的两个抽象同时性动作行为。

八、与印象反差的动作行为顺接

终助词「～タ」或名词后面、接连语「～カト思ウト」作为接续助词现象使用、相同类的还有「～カト思ッタラ」「～カト思エバ」、表示行为人对前面的动作行为内容的认可。但是、后面

转换的动作行为内容已与前面认可的动作行为内容不同。可以将这种前后动作行为的转换视为思考行为、表示状态变化很快或出乎预料的意思。相当于汉语“以为是…、不料想…”或“刚…就…”的意思。比如：

例

32、この分では今夜は徹夜かと思ったら、案外早く済みました。／以为照这个样子下去、今晚将会搞个通宵、不料想却很快结束了。

33、あの子はもう勉強を始めたかと思ったら、また居眠りをしています。／以为孩子开始学习了、不料想又睡着了。

34、母はいつも忙しい。さっき、料理を作っていたかと思うと、今はもうミシンを踏んでいます。／妈妈总是很忙、以为妈妈还在做饭、现在已经在蹬缝纫机了。

35、雨が止んだかと思えば、また大雨が降り始めました。／以为雨已停了、又开始下起来。

接续助词「～カト思ウト」接在终助词「～タ」或名词后面、表示刚在思考中的前面动作行为已经变化、而且很快或出乎预料的意思。例句 32 是想象中的通宵很快结束、例句 33 是认可的学习看到的是睡眠、例句 34 认定母亲在做饭、现实中母亲开始了缝纫工作、例句 35 是认可的停雨、看到是大雨。例句 32 ～ 35 都有共同特点、即后面的动作行为与前面思考中的动作行为不同。

但是、接续助词「～カト思ウト」这种形式、对前面的思考动作行为、后面不可以使用意志、推量、命令、否定动词。比如：

× 私はよそから家に帰っていたかと思うと、また出かけたいです。

× 部長は皆がテーブルの上を片付けたかと思ったら、床を掃きなさいと言いました。

以上是两例错误句。「私はよそから家に帰っていたかと思うと、また出かけたいです。／我一回到家、马上又想出去。」「部長は皆がテーブルの上を片付けたかと思ったら、床を掃きなさいと言いました。／大家刚收拾好桌面上的东西、部长马上说了句“把地扫了”。」如果、仅从语法和翻译判断、这两例错误句可视为正确句。「私はよそから家に帰っていたかと思うと、また出かけたいです。」是主观意志句、「部長は皆がテーブルの上を片付けたかと思ったら、床を掃きなさいと言いました。」是命令句。然而、考虑到接续助词「～カト思ウト」等的功能作用、因此二者都不可以套用接续助词「～カト思ウト」。

通过正确句和错误句对比来看、接续助词「～カト思ウト」居于两个动词中间、在思考认定中的瞬间、后续的动作行为内容已与前面的动作行为内容截然不同。

是说话人认定一个动作行为内容的瞬间、产生后续的动作行为的表述、思考中的两个迅速转换的动作行为对比陈述句。

九、视觉中的前后动作行为迅速顺接

连语「～カ～ナイカノウチニ」或「～ガ早イカ」接在动词连体形后面、作为接续助词现象使用、表示前后动作行为迅速顺接。这种前后动作行为转换、只限于对发生的转换的事后描述。更确切地说是视觉中的事实描述。而不同于八的思考行为的动作行为转换。应是一次性陈述句。一般可以与「～すると同時に」互换使用。相当于汉语“刚…就…”或“一…马上…”的意思。比如：

例

36、夫は疲れた様子で帰宅し、布団に入るか入らないかのうちに、眠ってしまいました。／丈夫一副疲惫不堪的样子回到家里、刚躺下就睡着了。

37、小田先生はチャイムが鳴るが早いか、教室に入ってきました。／上课铃声刚响、、小田先生就进了教室。

38、その男はジョッキを掴むが早いか、一気に飲み干しました。／那个男人一抓起酒杯、马上一口气喝干了。

39、先生の講義が終わるか終わらないかのうちに、ノートや教科書を閉じて片付け始める学生もいます。／老师的课刚要结束、有的学生已开始合上书和笔记本收拾起来。

接续助词「～カ～ナイカノウチニ」或「～ガ早イカ」接在动词连体形后面、表示前面的动作行为在说话人的视觉中尚未完整地判断出是否结束、后续动作行为已经发生。例句 36 ～ 39 都强调前后动作行为的紧凑性。例句 36 是强调躺下睡着之快、例句 37 似乎有踩着铃声的尾声走进教室之感、例句 38 似乎是抓杯喝干同步、例句 39 课堂结束与收拾课本似乎是一起做。例句 36 ～ 39 的共性是前面的动作行为向后面动作行为的转换非常快。

但是、接续助词「～カ～ナイカノウチニ」主要用于口语、接续助词「～ガ早イカ」主要用于文章。接续助词「～カ～ナイカノウチニ」或「～ガ早イカ」的后面不可以使用意志、推量、命令、否定动词。同时非一次性常态陈述句都不可使用。比如：

× クリスマスにプレゼントやクリスマスカードをもらうが早いか、御礼を言いなさい。

× 入国ビザーが下りるか下りないかのうちに、ここを出ましょう。

× 桜便りが聞こえるが早いか、家族連れで花見に出かけるようになります。

以上是三例错误句。虽然「クリスマスにプレゼントやクリスマスカードをもらうが早いか、御礼を言いなさい。／圣诞节一受到礼物和圣诞卡、马上致谢。」「入国ビザーが下りるか下りないかのうちに、ここを出ましょう。／入境签证一下来就离开这里。」「桜便りが聞こえるが早いか、家族連れで花見に出かけるようになります。／一传来樱花盛开的消息、马上就带着家属去赏樱花」从所译的汉语句子判断、也可以认为是正确的表述。但是、「クリスマスにプレゼントやクリスマスカードをもらうが早いか、御礼を言いなさい」是命令句、「入国ビザーが下りるか下りないかのうちに、ここを出ましょう。」是主观意志句、「桜便りが聞こえるが早いか、家族連れで花見に出かけるようになります。」是常态陈述句。三例错误句都不适用接续助词「～カ～ナイカノウチニ」或「～ガ早イカ」。

通过正确句和错误句使用对比、可以限定接续助词「～カ～ナイカノウチニ」或「～ガ早イカ」的使用范围。从视觉角度考虑、接续助词「～カ～ナイカノウチニ」或「～ガ早イカ」居于两个动词中间、形成前面的动作行为在说话人的视觉中尚未完整地判断出是否结束、后续动作行为已经发生的表述。

为了更清晰地表达各接续助词的使用方法和所含意义的不同、现将这些助词做出下列表格：

～ト（スグ）	必然结果的主观动作迅速顺接
	例：今日はほんとうに疲れているので、家に帰るとすぐ寝ました。／今天是真累了、一回到家、马上就睡了。
～トタン（二）	非意料中的动作迅速顺接
	例：窓を開けたとたんに、机の上の書類などは吹き飛ばされてしまいました。／刚打开窗户、不曾想把桌子上的文件一下子都刮飞了。
シダイ	期待、请求的动作迅速顺接
	例：何か心当たりがあり次第、まず私に知らせてください。／如果有什么线索、请首先通知我。
ソバカラ	习惯性的动作顺接
	例：年を取っているので、教わるそばから忘れてしまいました。／上了年纪了、刚学会的东西就忘记、随学随忘。
二ツケテ	心理条件反射的动作迅速顺接
	例：あの人の暗い顔を見るにつけて、私は子供の頃の自分を思い出します。／每次看到那个人的灰暗的面孔就想起孩提时代的自己。
ナリ	不自然的动作迅速顺接
	例：子供は母親の顔を見るなり、ワッと泣き出しました。／孩子一看到母亲、就放声大哭。
ヤ或ヤイナヤ	同时性的动作迅速顺接
	例：外交関係が樹立されるや否や、人員往来は盛んになってきます。／外交关系刚建立、人员往来立刻变得频繁起来。
～カト思ウト或～カト思ッタラ	与印象反差的动作行为顺接
	例：あの子はもう勉強を始めたかと思ったら、また居眠りをしています。／以为孩子开始学习了、不料想又睡着了。
～カ～ナイカノウチニ或～ガ早イカ	视觉中的前后动作行为迅速顺接
	例：夫は疲れた様子で帰宅し、布団に入るか入らないかのうちに、眠ってしまいました。／丈夫一副疲惫不堪的样子回到家里、刚躺下就睡着了。

以上是对日语时间同时性顺接特点及使用所做的分析对比。日语学习者经常会遇到同一个词解释不同现象的情况、由于是站在汉语的角度去翻译、理解、因此、会产生诸多疑惑。例如、时间同时性顺接的使用。对这种看似相同却又不同的语句、如果从单词最基本的含义去理解、逐步分析每个场合的表述内容、就会发现其中的差异性、就会更清晰地理解日语时间同时性顺接接续助词的不同表述内容。

以上例を二つ挙げて比較して見たが、日本人には何気なく言える話だが、われわれ外国人には相当むずかしいと思う。応用日本語と試験日本語の相違を立証しようと思って、比べてみた。私はいわゆる理論より実用性を重んじる。突っ込んで応用日本語と試験日本語の融合点がどこにあるか、教学の基準を設定して両方とも使用しやすい方法を探してみると思う。

5. おわりに

中国の大学における試験及び日本語試験に関する問題点を考察してみたが、一番大きな問題といえば、教員によって応用日本語と試験日本語についてその理解と解釈が違うことである。特に募集している新しい教員が、経験不足のため、満足教育できない。もう一つは、日本語教師の研究活動も不足している問題も大きい。数多くの教師は学内の日本語専攻と非専攻の講義、そして社会人対象のアルバイト講義に迫われて、研究活動を行う時間が少ない。確かに外国との研究交流が増えつつあるが、チャンスが少ないのも事実である。

それから、また教育用付属設備を改善することも問題であるが、聴解試験中、イヤホンを使うのと裸録音機一台使うのでは効果が違うのも事実である。よい成績が取れるかどうか設備改善に直接関係している。

また、試験の日本語教育をどう施すか、項目として今後研究していきたいところが多いと思う。

良好なものを選び、不良なものを取り除き、競争が厳しい社会でより高い目標を目指して、正しい日本語教育を行うことは日本語教育者と日本語学習者にとって望ましいものである。

【注】

1) http://www.jees.or.jp/jlpt
2) 李培建「中国における日本語教育と日本語教材の編成及び使用について」中央学院大学社会システム研究所『紀要』第八巻第一号（2007）、p209
3) http://baike.baidu.com/view/5183.htm
4) 李培建「中国における日本語教育と日本語教材の編成及び使用について」中央学院大学社会システム研究所『紀要』第八巻第一号（2007）、p210
5)「大学日本語教学大綱」 高等教育出版社（2000）、p2
6)「文化大革命四十周年」 STNN, CC（2006）
7)「総合的日本語教育を求めて」の「中国の大学における日本語専門教育」 国書刊行会（2004）p206、208
8) 同上
9)「日本語教育と日本文化、国際シンポジウム」資料（2006 年 8 月）p56
10)「どんな時どう使う日本語表現文型 500〔中、上級〕」 アルク編（2004）p42

参考文献

1)「高等院校日本語専攻高年級教学大綱」
教育部高等学校外国語専攻教学指導委員会日本語組編　2003 年 3 月
2)「大学日本語教学大綱」
高等教育出版社編　2000 年 10 月
3)「わが国の教育水準」 文部省編　昭和 65 年
4)「高校日本語専攻八級試験大綱」
上海外国語教育出版社編　2002 年 2 月
5)「全国外国語水準（wsk）大綱」
高等教育出版社編　2003 年 3 月
6)「大連外国語学院教学大綱」
内部資料　1996 年
7)「大連外国語学院海外考试中心简介」
2007 年 12 月
8)「どんな時どう使う日本語表現文型 500〔中、上級〕」アルク編　2004 年 6 月
9)「文化大革命四十周年」
STNN, CC　2006 年 5 月
10)「現代語の助詞、助動詞」
国立国語研究所　秀英出版　昭和 57 年
11)「現代語助動詞の史的研究」
吉田金彦　明治書院　昭和 56 年
12)「助動詞」 北川千里　荒川出版　平成 2 年
13)「助詞」 北川千里　荒川出版　平成 3 年
14)「日语助词、助动词」
刘金钊 等　西安交通大学出版社　1998 年
15)「日本语句型辞典」
徐一平　くろしお出版　2003 年
16)「日本語の文法（上、下）」

寺村秀夫　国立国語研究所　昭和 55 年
17)「いわゆる日本語助詞の研究」
奥津敬一郎等　凡人社　1990 年 10 月
18)「日语句型例解活用辞典」
李濯凡　清华大学出版社　2003 年 11 月

The Examination of China and The Examination of Japanese Language

LI Peijian
Dalian University of Foreign Language

Abstract

This article introduces the examination of universities and Japanese language in China. It emphasizes the history of examination and the evolutive process which from past to present. At the same time, it introduces the influence of examination on the evolutive time of society, living and study. Examination plays a important role in economic development.